

海上自衛隊護衛艦の入港・一般公開の拒否を

日本共産党市議団が名古屋港管理組合に抗議と申し入れ（7月12日）

海上自衛隊の護衛艦「くらま」が、当初予定されていたイージス艦「こんごう」の都合が悪くなったとして、代わりに7月22日、名古屋港に入港、23日に一般公開を行うことが明らかになり、日本共産党市議団は7月12日、名古屋港管理組合に、自衛艦の入港を拒否するよう、抗議と申し入れを行いました。都合が悪くなったからと代替護衛艦を入港させることは、名古屋港へはいつでもは入れるというイメージをつくるためとしか思えません。申し入れには、わしの恵子議員と山口清明議員、さはしあこ議員が参加しました。



しらね型護衛艦 144「くらま」

	<p>長さ159m 幅17.5m 深さ11.0m 喫水5.5m 基準排水量5,200トン タービン2基2軸 馬力70,000 P S 速力31ノット 定員360名</p>	<p>兵装 54口径5インチ単装速射砲x2 アスロックx1 3連装短魚雷発射管x2 短SAMランチャーx1 哨戒ヘリコプターx3 高性能20ミリ機関砲x2</p>
--	---	---

自衛艦の入港を拒否するよう申し入れる、わしの恵子、山口清明、さはしあこ、の各市議

2011年7月12日

名古屋港管理組合 管理者 河村たかし様

日本共産党名古屋市議員団 団長 わしの恵子

海上自衛隊の護衛艦「くらま」の名古屋港入港に関する申し入れ

海上自衛隊は7月22日から24日まで、護衛艦「くらま」を名古屋港に入港させ、23日午後には一般公開も行うと発表した。

当初の予定ではイージス艦「こんごう」の入港が予定されていたが、自衛隊側の都合で急遽、変更されたようである。

伊勢湾では、昨年夏に海上自衛隊の大規模な洋上展示訓練が行われた。そしてここ数年は毎年のように、人出の多い夏休み期間中に海上自衛隊の軍艦の入港と一般公開が繰り返されている。今回も、艦船のスケジュールを無理にやりくりしてでも、この時期の名古屋港入港にこだわっているようである。

軍艦の名古屋港入港を認めることは、商業港である名古屋港の軍事利用に道を開くことであり、港湾管理者の責任で拒否すべきである。

軍艦の一般公開は、憲法違反との指摘もある自衛隊の広報活動に他ならず、市民に親しまれる港づくりをめざす名古屋港・ガーデンふ頭のあり方ともそぐわ

い。とりわけ人出が多い夏休み期間中の入港と一般公開は問題である。

港湾は、国際的に平和な環境が保たれてこそ発展できる。名古屋港の発展にとつていまやアジア各国各港との交易は欠かせず、アジア諸国との平和友好関係を維持し発展させることは本港の発展を支える基本的条件のひとつである。日本国憲法第9条はそのためにも堅守すべきである。

よって以下の点を申し入れる。

- 1、海上自衛隊の護衛艦「くらま」の名古屋港入港を拒否すること
- 2、ガーデンふ頭を使った軍艦の一般公開を行わせないこと
- 3、港湾管理者として、日本国憲法を遵守し、とりわけ憲法9条の不戦・平和の精神をすべての港湾行政に貫くこと